





特別廳費	官 吏	人員 <sub>二</sub> 件 <sub>八</sub> 分	雜給及雜費	給 與	慰 勞 金	雇 員 給	傭 人 料	給 仕	小 使	製 本 職	被 服 費
	七					四		一	一	一	
	七					四					
	...					...					
七三三九	一四〇〇	五九二九	七七一〇	六九三	六九三	五八八〇	一〇五〇	一八〇	三八	四九〇	三七
...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
						雇員給及傭人料，十分一					



水	電	雜	小	給	
料	車	費	使	仕	
二 四	三 冊		一	一	
一	三				
⋮	⋮				
二 四	三 六	六 〇	一 二	二 五	
⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	

附記

本賞ハ恩給権者ヨリ恩給證書再交付ノ申請ヲ受ケタル後調査其  
 他ノ関係上年度内ニ豫定ノ如ク終了シ能ハザルノ虞アルニ依リ  
 支出残額ヲ翌年度ニ繰越使用スルノ明許ヲ要ス

恩給臨時取扱諸費支出年度割表

款	項	目	總費額	昭和五年度	同十四年度
---	---	---	-----	-------	-------



恩給臨時取 報諸費				
恩給臨時取 報諸費				
判任俸給	廳費	雜給及雜費		
四五三七二	一六一四二	一五四四〇		
二二七一四	八〇九九	七七二〇		
二二六五八	八〇四三	七七二〇		
二二七一四	六八九五			
二二六五八	六八九五			



恩給臨時取扱諸費

一 恩給臨時取扱ニ關スル經費

今回、恩給法ノ改正ニ依リ増加恩給、傷病年金及公致カニ因ル傷疾疾病、為死亡シ又ハ増加恩給ヲ併給セラシテ死亡シタル者、遺族、扶助料ヲ増額シテ出征軍人及遺族、救濟ニ資スルコトトナ  
ルニ付之ガ證書、更正費ヲ要スルト

支那事変ニ因リ陸海軍々人戦死者、遺族扶助料、戦傷病者、増加恩給、傷病年金及傷病賜金等、請求数ハ著シク増加スル見込ニシテ是等請求者、全部ハ恩給ヲ唯一、生活資源ト為スモノナ  
ルハ故ニ速ニ裁定給與スルノ要アルトニ依リ之ガ經費ヲ豫算セリ

款 項 金額 算 出 内 譯

恩給臨時取扱諸費

一四三、四九一



恩給臨時取扱諸費 一四三、四九一

目及区分	員数	単價	金額	備考
判任俸給			一七、七三〇	
屬	一八	九、五〇〇	一、七三〇	
廳費			四、一七三	
普通廳費	一八	一、一〇〇	一、九八〇	
特別廳費			三〇、一〇三	
官吏	一八	二、〇〇〇	三、六〇〇	
人員 <small>（伴弁）</small> 九分			二、六五〇	
初度調升費			九、七〇〇	
官吏	一八	一、〇〇〇	一、八〇〇	
嘱託	一八	一、〇〇〇	一、八〇〇	
雇員	一三	五、〇〇〇	六、一〇〇	











内ニ豫定ノ如ク終了ニ能ハサルノ虞アリ依テ本年度ノ支出残額ハ  
之ヲ翌年度ニ繰越使用スルヲ要ス



屬囑託雇員所要人員算出内譯

事務内譯	件数	属	囑託	雇員	計
恩給局 恩給法改正ニ依ル 更正件数	八三、三六六				
扶助料受給者	五三、三二八		八人 百四件 年三三〇件	四四人	五二人
增加恩給	一五、三六八		二人 百八件 年三四〇件	一一人	一三人
傷病年金	一〇、三四二				
傷病賜金	四、三三八		五人 百三件 年九〇件	一五人	二人 囑託一人ニ付雇員三人
支那事変ニ依ル 增加件数	五四、九三四				
扶助料(戦死者)	二四、九三四		二人 百四件 年二二〇件	六〇人	八〇人
增加恩給受給者	一〇、〇〇〇	一百三件			
傷病年金	五、〇〇〇	年九〇件			
同		三三			一三二人 属一人ニ付雇員三人 割







内閣

一法制局事務整備ニ関スル經費

法制局所掌ノ事務ハ各省及殖民地官廳ノ事務増加ニ伴ヒ近時益々繁劇ヲ加ヘ殊ニ議會開會前及開會中ニハ多数ノ法律案集積ニ急速ニ之ヲ審議スルニ付勢カラサル困難ヲ感ジツ、アリ又議會閉會後ニ於テハ法律及豫算ノ施行ノ爲多数ノ勅令ヲ審議スルノ要アリ加之企畫廳設置後ニ於テハ同廳トノ連絡事務増加シ又同廳ニ於テ重要政策決定後之ニ基ク法令ノ審査ヲ爲スニ付テハ益々急速處理ノ要アルヲ以テ明治三十年代ト大差ナキ現在ノ定員ヲ増加シ現在ノ二部制ヲ三部制ト爲シ各部參事官ヲ四人トシ審査ノ敏速周到ヲ期セントス而シテ法令ノ審査ノ比較的閑散ナル時期ニ於テハ審査方針ノ統一ニ関スル事項、用字例ノ統一ニ



ル事項等法令案審査ニ関スル重要事項ヲ管掌ラシムルノ必要アリ  
ト、尚法制局長官ガ政務官ナル為任期概ネ短期間ナルヨリ  
各廳及樞密院等ト、政務ニアラザル對外事務ノ連絡統一ヲ期  
スルコト困難ナル事情アルヲ以テ此ノ缺點ヲ除キ且局内各部  
ノ統一ヲ保持スルニ爲シハ事務官タル次長ノ設置ヲ要スルニ依リ  
之ガ經費ヲ増加セリ

内閣 俸給	金額	算出	内譯	目及区分		單價		年額	
				員數	金額	員數	金額	員數	金額
	五、四、七、三、三			勅任俸給				一、四、五、〇	一、三、四、八、六
	三、二、一、六			次長				一、五、〇	一、四、三、五、〇
	九、一、五			參事官				一、四、五、〇	一、三、四、八、六



事務費

二、五、一、六  
五、四、八、八

初度調査費	八員三件八分	官史	特別廳費	普通廳費	廳費	計	雇	判任俸給	朱事官	養任俸給
九九〇	七九五	二〇〇・一三三	一〇、五三三	二〇〇・一三三	二、八八〇	三、五五五	九三	六、五	二、三	六、八
九九〇	三、九三八	一、九五〇	七、九八〇	一、七三三	六、八八〇	一、九六五	九三	六、五	四、六	四、六



勅任官	奏任官	判任官	人員 分(自動車)	各所修繕	内國旅費	高等官	判任官	給與	慰勞金	雇員給	備入料
三〇〇〇	二〇〇〇	一〇〇〇	四〇〇			六〇〇	三〇〇			三〇〇	
二〇〇	一〇〇	九〇	二〇			四〇	九〇			一三〇	
六〇〇	四〇〇	九〇	八〇	六〇	五〇	二四〇	二七〇	九四七	九四七	五四六	四〇〇
二〇〇	二〇〇	九〇	二〇			四〇	九〇			一三〇	
六〇〇	四〇〇	九〇	八〇	四五〇	三八二五	一八〇	二二五	七一〇	七一〇	四九五	三〇七



臨時徹夜賄料	小使	賄料	諸謝金	雜賞	小使	給仕	被服費	傭員	製本職	小使	給仕
					三三	三五		四〇	四〇	三三	二六
	三三				三三	三五		四〇	四〇	三三	二六
六〇	一四六	一四六	三〇〇	五九元	三六	七五	二一	一四〇	四〇	二四	四〇
	一四六				三三	三三		四〇	一	三三	三三
四五	一九六	一九六	三五	四四八	二七	五六	八三	一三八	三六	八五	四五



舟車馬類借債	自動車	電車券	水料	諸雜費	合計	合計
		三〇〇	一〇〇			
		一〇〇	三〇			
四三六	四五〇	三六	三二	三〇〇	六九六	四六六
		一一	三			
三四〇	三三六	三	三	三三	五四六	四六四



内閣

一、賞勳局職員増加ニ関スル経費

大正十三年ニ於ケル行政整理ニ際シ賞勳局属ハ定員十八ヲ五人ニ削減セラレタルガ近時帶勲者数ノ増加ニ伴ヒ進級叙勲者数増加シタルト昭和七年勅令第七十六號ニ依リ市町村、小學校長ニシテ功績アル者ニ對シテハ奏任官ノ待遇ヲ附與スルコトトナリタル爲之ニ関スル叙勲事務増加シタルト世相ノ險惡ナル爲儀尊ニ関スル事務中特ニ判定ノ困難ナルモ、増加シタルト世運ノ變遷ニ伴ヒ輓近寄附ニ関スル公徳的精神増進シタル爲褒賞ニ関スル事務増加シタル等、爲賞勳局属ノ現在定員ヲ以テシテハ事務上支障ヲ來ス虞アルニ付属五人ヲ増員スルノ必要アルト、叙勲者名簿整理ニ関スル事務ハ大正十四年以來臨時費ヲ以テ實施シ



来リタル處愈々昭和十二年度ヲ以テ同カードノ氏名、勲記、敍賜年月日、官職位勲功爵、事由等、記入ヲ完了スルコトナリタルカ現在所有カード合計二百九十万余枚ニ對シ日々加授、進敍又ハ改氏名、死亡、若ハ勲章、襷等々ニ依ル事項ヲ記入整理シ定期敍勲及特別敍勲等各壇ノ行賞関係事務調査ノ基本資料トシテ使用シ恩賞事務、完全ヲ図ルノ必要アルニ依リ之ガ経費ヲ増加セリ

内閣		俸給	款項	金額	算出内
		中九八五 中六七五		一三九七 一〇六七	内閣
属	判任俸給	目及区分	單價	賞勲局職員 増加分月分	敍勲者名簿
			九八五		
			五	三六九三	
			三六九三		
			一	九八五	
			九八五		
			六	四六七八	
			四六七八		
		計			



事務費

一〇・四二二  
十末〇〇〇

應	普通應費	特別應費	官	吏	初度調弁費	判任官	内國旅費	判任官	給與	慰勞金
二〇〇〇	二〇〇〇	七五〇	二〇〇〇	七五〇	五〇〇	一〇〇〇	三〇〇〇	三〇〇〇	三〇〇〇	三〇〇〇
五	五	五	五	五	五	五	二	二	二	二
一六六二	四一三	七五〇	七五〇	七五〇	五〇〇	五〇〇	四五〇	四五〇	三二五	三二五
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
四七九	一一〇	三六九	二〇〇	二〇〇	一六九	一六九	一六九	一六九	八四〇	八四〇
六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六
二一四一	五三二	一一一九	九五〇	九五〇	一六九	一六九	一六九	一六九	一五五	一五五



合計	水料	賄料	小使宿直	雜費	小使	給仕	被服費	小使	給仕	傭入料	雇員給
	一				一	二		三	六		四
	一				一	二		三	六		四
	一				一	二		三	六		四
	一				一	二		三	六		四
九三二	五五六	一一	〇	一一	〇	〇	〇	〇	〇	〇	三二五
		三三	一		一	一		一	一		二〇
一一三九七	一〇四二二	三三	七三	九六	一一	二五	三七	三八	一八	五六	八四〇
			一		一	一		一	一		三〇
二〇六六	一六〇〇	三四	七三	一〇七	一一	二五	三七	三八	一八	五六	一一五五



閣甲 四八

昭和十三年三月十八日

内閣書記官長

内閣書記官

昭和十三年三月十九日  
三月十四日



# 内閣總理大臣 麥

## 法制局長官

外務大臣

陸軍大臣

文部大臣

逓信大臣

厚生大臣

内務大臣

海軍大臣

農林大臣

鐵道大臣

大藏大臣

司法大臣

商工大臣

拓務大臣

別紙内閣總理大臣請議昭和十年勅令第百四十一號臨時内閣ニ東北局ヲ設置スル件中改正ノ件ヲ審査スルニ右ハ相當ノ儀ト思考ス依テ請議ノ通

法制局



閣甲 四八

昭和十三年三月十八日

内閣書記官長



内閣書記官



昭和十三年三月十九日

# 内閣總理大臣 麥

## 法制局長官

外務大臣

麥

陸軍大臣

血

文部大臣

血

遞信大臣



厚生大臣

血

内務大臣

血

海軍大臣

血

農林大臣

血

鐵道大臣

血

大藏大臣

血

司法大臣

血

商工大臣

血

拓務大臣

血

別紙内閣總理大臣請議昭和十年勅令第百四十一號臨

時内閣ニ東北局ヲ設置スル件中改正ノ件

ヲ審査スルニ右ハ相當ノ儀ト思考ス依テ請議ノ通

法制局



閣議決定セラレ可然ト認ム

勅令案

朕昭和十年勅令第百四十一號臨時内閣ニ  
東北局ヲ設置スルノ件中改正ノ件ヲ裁可シ  
茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

昭和十三年 三月三十一日

内閣總理大臣

呈案附箋ノ通



法制局閣第二一號

參月拾六日

梅島

昭和十年勅令第四百一十一號臨時內閣ニ  
東北局ヲ設置スル件中改正ノ件

東北地方ノ振興方策ニ關スル事項ヲ調査セシムル必要上東北局ニ新ニ  
委員ヲ設置スル爲別紙案ノ通勅令改正ノ要アリ  
仍テ閣議ヲ請フ

昭和十三年三月十六日

內閣總理大臣 公爵 近衛 文 麿



內閣總理大臣 公爵 近衛 文 麿 殿

閣甲四八



朕賞勳局官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

年 月 日

内閣總理大臣

内閣



勅令第百七十五號

昭和十年勅令第四百一十一號中左ノ通改正ス

第四條 內閣東<sup>ニ</sup>置<sup>キ</sup>東北地方ノ振興方策ニ關スル事項ヲ調査セシム

委員ハ內閣總理大臣ノ奏請ニ依リ學識經驗アル者ノ中ヨリ內閣ニ於テ之ヲ命ズ

委員ノ任期ハ二年トス但シ特別ノ事由アル場合ニ於テハ任期中之ヲ解任スルヲ妨ゲズ

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス



理由書

東北振興調査會ノ廢止ニ伴ヒ東北地方ノ振興方策ニ關スル事項ヲ調査  
セシムル爲メ内閣ニ北局、委員ヲ設置スル、  
由ル



参照

●昭和十年勅令第四百四十一號（臨時內閣ニ東北局ヲ設置スルノ件）

昭和十年五月二十五日  
勅令第四百四十一號

朕臨時內閣ニ東北振興事務局ヲ設置スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

總理大臣  
副大臣

- 第一條 內閣ニ臨時其ノ所屬局トシテ東北局ヲ置キ左ノ事務ヲ掌ラシム
  - 一 東北地方ノ振興方策ノ調査及其ノ實行ノ統一保持ニ關スル事務
  - 二 東北興業株式會社及東北振興電力株式會社ノ業務ノ監督
- 第二條 內閣ニ臨時左ノ所屬職員ヲ置キ東北局ニ屬セシム
  - 東北局長
  - 東北局書記官

專任二人 奏任  
專任四人

第三條 內閣ニ東北局參與ヲ置キ局務ニ參與セシム

參與ハ內閣總理大臣ノ奏請ニ依リ關係各廳勅任官ノ中ヨリ內閣ニ於テ之ヲ命ズ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附則 (昭和十一年勅令第三百七十一號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ內閣東北振興事務局書記官ノ職ニ在ル者別ニ辭令ヲ發セラザルトキハ同官等俸給ヲ以テ內閣東北局書記官ニ任セラレタルモノトス





専 業 費	100	100	100
東 洋 電 氣 株 式 會 社	100	100	100
第 一 部 分	100	100	100
第 二 部 分	100	100	100
第 三 部 分	100	100	100
第 四 部 分	100	100	100
第 五 部 分	100	100	100
第 六 部 分	100	100	100
第 七 部 分	100	100	100
第 八 部 分	100	100	100
第 九 部 分	100	100	100
第 十 部 分	100	100	100
第 十 一 部 分	100	100	100
第 十 二 部 分	100	100	100
第 十 三 部 分	100	100	100
第 十 四 部 分	100	100	100
第 十 五 部 分	100	100	100
第 十 六 部 分	100	100	100
第 十 七 部 分	100	100	100
第 十 八 部 分	100	100	100
第 十 九 部 分	100	100	100
第 二 十 部 分	100	100	100

日本標準規格B4判(十一行全)(富井納)



閣甲 四七

昭和十三年 三月十八日

内閣書記官長

内閣書記官

昭和十三年三月十九日  
昭和十三年四月一日



内閣總理大臣 **齋藤**

法制局長官



外務大臣

**齋藤**

陸軍大臣

**齋藤**

文部大臣

**齋藤**

逓信大臣



厚生大臣

**齋藤**

内務大臣

**齋藤**

海軍大臣

**齋藤**

農林大臣

**齋藤**

鐵道大臣

**齋藤**

大藏大臣

**齋藤**

司法大臣

**齋藤**

商工大臣

**齋藤**

拓務大臣

**齋藤**

別紙内閣總理大臣請議東北振興調

査會官制廢止ノ件

ヲ審査スルニ右ハ相當ノ儀ト思考ス依テ請議ノ通

四

去 制 局



閣議決定セラレ可然ト認ム

勅令案

朕東北振興調査會官制廢止ノ件ヲ裁  
可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

昭和十三年三月三十一日

内閣總理大臣

呈案附箋ノ通



法制局閣第二〇号

三月拾六日



榊島



東北振興調査會官制廢止ノ件

東北振興調査會ハ之ヲ廢止スル爲別紙案ノ通勅令制定ノ要アリ  
仍テ閣議ヲ請フ

昭和十三年三月十六日

内閣總理大臣 公爵 近衛 文 麿



内閣總理大臣 公爵 近衛 文 麿 殿

閣甲四七



勅令第七十六號

、東北振興調査會官制ハ之ヲ廢止ス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス



理 由 書

東北振興調査會ハ設置以來銳意東北振興ニ關スル調査研究ヲ遂ゲ大體  
其ノ目的ヲ達成シタルヲ以テ今回之ヲ廢止セントス



奉照

朕東北振興調査會官制ヲ裁可シ  
茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

昭和九年十二月二十四日

内閣總理大臣 岡田 啓介

勅令第三百四十六號

東北振興調査會官制

第一條 東北振興調査會ハ内閣總理大臣ノ

監督ニ屬シ其ノ諮問ニ應ジテ東北地方ノ

振興方策ニ關スル重要事項ヲ調査審議ス

調査會ハ前項ノ事項ニ付關係各大臣ニ建

議スルコトヲ得

第二條 調査會ハ會長一人、副會長二人及

委員若干人ヲ以テ之ヲ組織ス

特別ノ事項ヲ調査審議スル爲必要アルト

キハ臨時委員ヲ置クコトヲ得

第三條 會長ハ内閣總理大臣ヲ以テ之ニ充

ツ

副會長ハ内務大臣及農林大臣ヲ以テ之ニ

充ツ

委員及臨時委員ハ内閣總理大臣ノ奏請ニ

依リ内閣ニ於テ之ヲ命ズ

第四條 會長ハ會務ヲ總理ス

副會長ハ會長ヲ輔佐シ會長事故アルトキ

ハ内閣總理大臣ノ指名スル副會長其ノ職

務ヲ代理ス

第五條 調査會ニ幹事ヲ置ク内閣總理大臣

ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ズ

幹事ハ上司ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス

第六條 調査會ニ書記ヲ置ク内閣ニ於テ之

ヲ命ズ

書記ハ上司ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

附則  
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス





濟

閣甲九〇

昭和十三年四月九日

内閣書記官長



内閣書記官



佐藤



昭和十三年四月十二日認可  
昭和十三年四月十五日公布

# 内閣總理大臣 齋藤

## 法制局長官



外務大臣

齋藤

陸軍大臣

齋藤

文部大臣

齋藤

逓信大臣



厚生大臣

齋藤

内務大臣

齋藤

海軍大臣

齋藤

農林大臣

齋藤

鐵道大臣

齋藤

大藏大臣

齋藤

司法大臣

齋藤

商工大臣

齋藤

拓務大臣

齋藤

# 科學審議會官制

起案上申ス依テ

別紙ノ通閣議決定セラレ可然ト認ム

勅令案

法制局







朕科學審議會官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

昭和十三年四月十四日

内閣總理大臣

勅令第二百零八號

科學審議會官制

第一條 科學審議會ハ内閣總理大臣ノ監督ニ屬シ其ノ諮問ニ應ジテ不足資源ノ科學的補填ニ關スル重要事項ヲ調査審議ス  
科學審議會ハ前項ノ事項ニ付關係各大臣ニ建議スルコトヲ得



第二條 科學審議會ハ會長一人、副會長一人及委員若干人ヲ以テ之ヲ組織ス

第三條 會長ハ内閣總理大臣ヲ以テ之ニ充ツ

副會長ハ企畫院總裁ヲ以テ之ニ充ツ

委員ハ内閣總理大臣ノ奏請ニ依リ關係各廳高等官及學識經驗アル者ノ中ヨリ内閣ニ於テ之ヲ命ズ

第四條 會長ハ會務ヲ總理ス

副會長ハ會長ヲ輔佐シ會長事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理ス

第五條 科學審議會ニ幹事ヲ置ク内閣總理大臣ノ奏請ニ依リ關係各廳高等官ノ中ヨリ内閣ニ於テ之ヲ命ズ



幹事ハ會長及副會長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス

第六條 科學審議會ニ書記ヲ置ク關係各廳判任官ノ中ヨリ内閣ニ於テ  
之ヲ命ズ

書記ハ會長、副會長及幹事ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス



理由書

軍需ノ増大ト輸入ノ制限トニ因リ著シク需給ノ均衡ヲ失セル不足資源ノ科學的補填ニ關スル研究及之ガ實施ハ刻下ノ急務ナルヲ以テ右ニ關スル重要事項ヲ調査審議スル爲内閣ニ科學審議會ヲ設置スルノ要アルニ由ル



奏照

朕企畫審議會官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

昭和十三年二月十八日

内閣總理大臣 公爵 近衛 文麿

勅令第八十五號

企畫審議會官制

第一條 企畫審議會ハ内閣總理大臣ノ監督ニ屬シ其ノ諮詢ニ應ジテ平戰時ニ於ケル綜合國力ノ擴充運用ニ關スル重要事項ヲ調査審議ス

企畫審議會ハ前項ノ事項ニ付内閣總理大臣ニ建議スルコトヲ得

第二條 企畫審議會ハ總裁一人、副總裁一人及委員若干人ヲ以テ之ヲ組織ス

特別ノ事項ヲ審議スル爲必要アルトキハ臨時委員ヲ置クコトヲ得

第三條 總裁ハ内閣總理大臣ヲ以テ之ニ充ツ

副總裁ハ企畫院總裁ヲ以テ之ニ充ツ  
委員及臨時委員ハ内閣總理大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ズ

第四條 總裁ハ會務ヲ總理ス

副總裁ハ總裁ヲ輔佐シ總裁事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理ス

第五條 企畫審議會ニ幹事長及幹事ヲ置ク  
幹事長ハ企畫院次長ヲ以テ之ニ充ツ總裁及副總裁ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ掌理ス

幹事ハ内閣總理大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ズ上司ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス

第六條 企畫審議會ニ書記ヲ置ク内閣ニ於テ之ヲ命ズ

書記ハ上司ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

資源審議會官制及中央經濟會議官制ハ之ヲ廢止ス



參照

昭和十三年度大藏省所管追加豫算

歲出臨時部

第二款 調查費

第十九項 科學審議會諸費

第三目 雜給及雜費

第一節 給與

名稱	人員	一人ノ給額	總員ノ給額
會長手當	一	一六〇	一六〇 <small>円</small>
副會長同	三	一六〇	四八〇
委員同	六	一二〇	七二〇



幹事同

書記同

一五

一三〇

一八〇〇

一〇

七五

七五〇

(略)

参照

昭和十三年大蔵省官制官制

昭和十三年大蔵省官制官制

昭和十三年大蔵省官制官制

昭和十三年大蔵省官制官制

昭和十三年大蔵省官制官制

昭和十三年大蔵省官制官制

昭和十三年大蔵省官制官制

昭和十三年大蔵省官制官制



法制局関第 四五

三月廿九日



主任 産業部北野書記官 榎島



企畫院上申第二七號

昭和十三年三月二十九日

企畫院總裁 瀧

正



内閣總理大臣 公爵 近 衛 文 麿 殿

科學審議會設置ニ關スル件

軍需ノ増大ト輸入ノ制限トニ因リ著シク需給ノ均衡ヲ失セル不足資源ノ補填ニ關スル研究ト之ガ實施ハ刻下ノ急務ナルヲ以テ此ノ際内閣ニ科學審議會ヲ設置シ右ニ關スル重要事項ヲ調査審議セシメントス仍テ別紙勅令案ヲ具シ及上申候條之ガ制定方御取計相成度

関甲 七六

四

月



朕科學審議會官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

年 月 日

內閣總理大臣

內閣



勅令第

號

科學審議會官制

第一條

科學審議會ハ內閣總理大臣ノ監督ニ屬シ其ノ諮問ニ應ジテ  
不足資源ノ科學的補填ニ關スル重要事項ヲ調査審議ス

科學審議會ハ前項ノ事項ニ付(各)內閣總理大臣ニ建議スルコトヲ得

第二條

科學審議會ハ會長一人、副會長三人及委員若干人ヲ以テ之  
ヲ組織ス

第三條

會長ハ內閣總理大臣ヲ以テ之ニ充ツ

副會長ハ文部大臣、商工大臣及企畫院總裁ヲ以テ之ニ充ツ

委員ハ內閣總理大臣ノ奏請ニ依リ關係各廳高等官及學識經驗アル

者ノ中ヨリ內閣ニ於テ之ヲ命ズ

第四條

會長ハ會務ヲ總理ス

副會長ハ會長ヲ輔佐シ會長事故アルトキハ內閣總理大臣ノ指名ス



ル副會長其ノ職務ヲ代理ス

第五條 科學審議會ニ幹事ヲ置ク内閣總理大臣ノ奏請ニ依リ關係各

廳高等官ノ中ヨリ内閣ニ於テ之ヲ命ズ

幹事ハ會長及副會長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス

第六條 科學審議會ニ書記ヲ置ク關係各廳判任官ノ中ヨリ内閣ニ於

テ之ヲ命ズ

書記ハ會長、副會長及幹事ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス



理由書

軍需ノ増大ト輸入ノ制限トニ因リ著シク需給ノ均衡ヲ失セル不足資源ノ科學的補填ニ關スル研究及之ガ實施ハ刻下ノ急務ナルヲ以テ右ニ關スル重要事項ヲ調査審議スル爲内閣ニ科學審議會ヲ設置スルノ要アルニ由ル





科學審議會要綱

昭和三年五月拾壹日

一、軍需ノ増大ト輸入制限トニ因リ著シク需給ノ均衡ヲ失セル不足  
資源補填ノ研究及之ガ實施ハ刻下ノ急務ナルガ特ニ各種金屬類、  
液體燃料類及化學品類ハ今後益々其ノ補給困難トナルベク從テ之  
等資源ノ國內増産及代用資源ノ研究等科學的見地ヨリ急遽其ノ補  
填方策ヲ講ズルハ我國防上故ニ産業上絶對必要トセララルル現状ニ在  
リ依テ内閣ニ科學審議會ヲ設置シ廣ク關係科學者、技術者等ノ參  
畫ニ依リ不足資源ノ科學的補填ニ關スル重要事項ノ調査審議ヲ爲  
サントス

二、科學審議會ニ於ケル主ナル審議事項左ノ如シ

- (一) 不足資源ノ増産ニ關スル科學的技術的事項
- (二) 代用品ノ發明研究並ニ活用ニ關スル事項
- (三) 新資源ノ利用ニ關スル研究並ニ應用化ニ關スル事項

考



三 差當リ急速審議スルヲ要スト認メラルル不足資源左ノ如シ

(一) 金屬類

特殊鋼、タングステン、モリブデン、ワナヂウム、銅、銅合  
金、鉛、亜鉛、錫、ニッケル、アンチモン、コバルト、白金、  
水銀、アルミニウム、マグネシウム

(二) 液體燃料及減磨油

石炭液化油、合成石油、ベンゾール、無水アルコール、減磨  
油

(三) 化學品類

パルプ、ゴム、皮革、タンニン材料





科學審議會委員候補者

(昭和十三年三月二十五日)

一、會長	內閣總理大臣	公爵	近衛文麿
一、副會長	文部大臣	侯爵	木戶幸一
	商工大臣		吉野信次
	企畫院總裁		瀧正雄
一、委員	內閣書記官長		風見章
	企畫院次長		青木一男
	大藏次官		石渡莊太郎
	專賣局技師		黑野勘六
	陸軍次官		梅津美治郎
	陸軍航空技術研究所長		香積見弼
	陸軍科學研究所長		多田禮吉



陸軍造兵廠長官

陸軍被服本廠長

海軍次官

海軍技術研究所長

海軍航空廠長

海軍燃料廠長

文部次官

東京帝國大學工學部長

教授

永持源次

鈴木熊太郎

山本五十六

日高鑛一

原五郎

御宿好

伊東延吉

丹羽重光

田中芳雄

大島義清

後藤正治

青木保

厚木勝基

吉川晴十



助教授

池田謙三

三島德七(教授手續中)

東京帝國大學理學部長

寺澤寬一

教授

柴田雄次

航空研究所長

加藤武夫

京都帝國大學工學部長

和田小六

教授

平野正雄

京都帝國大學理學部長

中澤良夫

京都帝國大學理學部長

小田川達朗

京都帝國大學理學部長

西村秀雄

京都帝國大學理學部長

藤田義象

京都帝國大學理學部長

倉內吟二郎

京都帝國大學理學部長

野滿隆治

教授

小松茂







金屬學會會長	理化學研究所長	鹽見研究所長	早稻田大學理工學部長	鐵道大臣官房研究所長	電氣試驗所長	纖維工業試驗所長	燃料研究所長	地質調查所長	大阪工業試驗所長	東京工業試驗所長	特許局長官	燃料局長官	商工次官
子爵													
本多光太郎	大河內正敏	楠本長三郎	山本忠興	橋口行彥	密田良太郎	吉岡直富	伴義定	山根新次	篠崎英之助	小寺房治郎	石井銀彌	竹內可吉	村瀨直養



日本學術振興會常務理事

波多野 貞夫

(以上委員六十四<sup>三</sup>名)



一、幹事 內閣書記官

企畫院總務部長 橫山 勇

產業部長 東 榮 二

交通部長 原 清

調查部長 楠村 甲午郎

陸軍省整備局長 藤澤 正 隆

海軍省軍務局長 井上 成 美

文部省專門學務局長 男爵 山 川 健

商工省工務局長 小 高 新 一

備山局長 小 金 義 照

二、書記

內閣 一名

企畫院 四名（總務、產業、交通、調查）



文部省	一名
商工省	二名



調査費

一、科學審議會設置ニ要スル經費  
 軍需ノ増大ト輸入ノ制限トニ因リ著シク需給ノ均衡ヲ失セル  
 不足資源ノ科學的補填ニ關スル研究及之ガ實施ハ刻下ノ急  
 務ナルヲ以テ右ニ關スル重要事項ヲ調査審議スル爲内閣ニ  
 科學審議會ヲ設置スルノ必要アルニ依リ之ガ經費ヲ豫算セリ

款 項 金 額

算出内譯

調 査 費		二二、〇五〇		科學審議會諸費		二二、〇五〇	
目及區分	員數	單價	金額	備考	應費	特別應費	内國旅費
	七九	三〇〇〇〇	二、三七〇〇〇	委員其他	延三〇	一〇〇〇〇〇	三〇〇〇〇〇
			二、三七〇〇〇	委員其他調査旅費 十人宛三回分			







科學審議會諸費支出年度別表

科目	總額	昭和十三年度	同十四年度	同十五年度
調查費	六六、一五〇	二二、〇五〇	二二、〇五〇	二二、〇五〇
科學審議會諸費	七、一〇〇	二、三七〇	二、三七〇	二、三七〇
國內旅費	九、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇
雜給及雜費	五〇〇、四〇〇	一六、六八〇	一六、六八〇	一六、六八〇

諸謝金	委員其他 辨當料	舟車馬類 賃(自 動車)	水料	諸雜費
延回 二、三七	二、〇〇〇	一、二〇時	一、〇二	一、六六八〇
二、〇〇〇	四、〇〇〇	四、〇〇〇	一、〇〇〇	一、六六八〇
五、〇〇〇	四、七四〇	四、八〇〇	一、〇二〇	一、六六八〇
七九人、三回分				



委員，構成

關係各廳高等官 一〇人（內閣三、大藏、陸海軍、文部、各次官四、外研究所長等四）  
學識經驗者 五〇人（大學教授及民間學者）

計 六〇人





閣甲 九六

昭和十三年四月十二日

内閣書記官長



内閣書記官



昭和十三年四月十三日裁可  
昭和十三年四月十日公布

内閣總理大臣 **廣**

法制局長官



外務大臣

陸軍大臣

文部大臣

逓信大臣

厚生大臣

**五**

内務大臣

海軍大臣

農林大臣

鐵道大臣

**三**

**五**

**五**

**五**

大藏大臣

司法大臣

商工大臣

拓務大臣

**興**

**五**

**五**

内閣所屬臨時職員設置制中改正ノ件

起案上申ス依テ

別紙ノ通閣議決定セラレ可然ト認ム

勅令案

六

法制局







朕内閣所屬臨時職員設置制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

昭和十三年四月十五日

内閣總理大臣

勅令第二百四十九號

内閣所屬臨時職員設置制中左ノ通改正ス

第一條 恩給ノ臨時取扱ニ關スル事務ニ從事セシムル爲内閣ニ臨時左ノ

所屬職員ヲ置キ恩給局ニ屬セシム

屬  
專任二十六人



附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(日本標準規格B4列) (木村納)



理由

恩給證書再交付ノ件數ノ増加竝ニ支那事變ニ因ル戰傷病者及戰死者遺族ノ増加ニ伴ヒ之ニ關スル恩給事務處理ノ爲臨時恩給局ニ職員ヲ増置スルノ必要アルニ由ル



參照

● 內閣所屬臨時職員設置制

昭和七年七月四日  
勅令第百十號

改正 昭和八年第一七三號、九年第四八號、一一年第三二號  
朕內閣所屬臨時職員設置制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム (總理大臣副署)

第十條 內閣所屬臨時職員設置制

第一條 削除

第二條 昭和十年國勢調査ニ關スル事務ニ從事セシムル爲内閣ニ臨時左ノ

所屬職員ヲ置キ統計局ニ屬セシム

統計局書記官 專任一人

統計局統計官 專任三人

統計局統計官補 專任十一人

第十條 專任八人

第三條 滿洲事件行賞ニ關スル事務ニ從事セシムル爲内閣ニ臨時左ノ所屬

職員ヲ置キ内閣官房ニ屬セシム

專任二人

第十二條 附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和六年勅令第三十五號ハ之ヲ廢止ス



參照

昭和十三年度大藏省所管豫算

歲出臨時部

第三十款 恩給臨時取扱諸費

第一項 恩給臨時取扱諸費

第一目 判任俸給

第一節 屬

八八六五円

大入俸給一人平均年額九百八拾五円

十五月分  
見出局



參照

昭和十三年度大藏省所管追加豫算

歲出臨時部

第三十一款 恩給臨時取扱諸費

第一項 恩給臨時取扱諸費

第一目 判任俸給

第一節 屬

十八人、俸給一人平均年額九百八十五圓

一七.七三〇月

恩給局  
官房



○臨時部

恩給臨時取扱諸費

一、恩給證書再交付ニ要スル經費

恩給受給者ニシテ金融業者等ノ爲ニ不當ニ恩給證書ヲ抑留セラレ其ノ使用ニ著シキ困難ヲ生ジ居ル者ニ對シ之ヲ救済スル爲今同勅令ヲ改正スルコトトナリ從來ヨリモ比較添簡易ニ證書ノ再交付ヲ認ムルノ結果脱法的金融ニ關聯シテ證書ノ再交付ヲ申請スル者激増スル見込ナリ而シテ斯ノ種ノ申請ニ對シテハ單純ナル亡失ノ場合ト異リ綿密ナル調査ヲ要スルヲ以テ現在職員ヲ以テシテハ到底之ヲ處理シ得ザヲニ依リ之ガ經費ヲ増加セリ

昭和十三年十四年分ノ二ケ年 屬 土人増員

恩給臨時取扱諸費

一、恩給金庫設立ニ伴フ經費

恩給金庫ノ新設ニ伴ヒ恩給證書ノ再交付ヲ申請スルモノ激増ス



ル見込ナルヲ以テ現在職員ヲ以テシテハ到底迅速ニ之ガ事務ヲ  
 處理スルコト能ハザルニ付之ニ要スル經費ヲ増加セリ  
 昭和十三、十四年度ノ二ケ年 屬 **七**人増員

一、恩給臨時取扱諸費

支那事變ニ因リ陸海軍軍人戦死者ノ遺族扶助料、戦傷病者ノ増  
 加恩給、傷病年金及傷病賜金等ノ請求數ハ著シク増加スル見込  
 ニシテ是等請求者ノ全部ハ恩給ヲ唯一ノ生活資料ト爲スモノナ  
 ルガ故ニ速ニ裁定給與スルノ要アルニ依リ之ガ經費ヲ豫算セリ  
 昭和十三年度 屬 十七人増員  
 昭和十四年度 屬 十六人増員

○ 遺和給

(高橋納)



閣甲一三二

昭和十三年五月十二日

內閣書記官長



內閣書記官



昭和十三年五月十三日閣

內閣總理大臣 廣

法制局長官



外務大臣

廣

陸軍大臣

廣

文部大臣

廣

遞信大臣

廣

厚生大臣

廣

內務大臣

廣

海軍大臣

廣

農林大臣

鐵道大臣

廣

大藏大臣

廣

司法大臣

廣

商工大臣

廣

拓務大臣

廣

議會制度審議會設置要綱別紙，通閣  
議決是相成度此段及稟申候也

七

法制局



議會制度審議會設置要綱



議會制度審議會設置（議院制度關係三  
調査會改組）要綱

一、理由

議院制度改革、貴族院制度改革及衆議院議  
員選舉法改正ニ關シテハ第六十九回帝國議會  
ノ貴衆兩院、建議及決議ニ基キ昭和十一年  
七月ニ議院制度調査會及選舉制度調査會、  
同十一月ニ貴族院制度調査會ガ夫々設置セ  
ラレ今日ニ及ビ居レル處、右三調査會、調  
査審議事項ハ相互ニ關連スル所アリ以



テ、之ガ調査審議、綜合化ヲ圖ルガ爲之ヲ一  
個ノ權威アル調査機關ニ改組スルヲ妥當ト  
スベク、而シテ其、組織ニ付テハ現在ハ三者何  
レモ總理大臣會長別ヲ採用シ居レルガ會ノ  
運営上會長ハ寧ニ閣外ノ練達堪能ノ權威  
者ノ中ヨリ簡拔シ又委員ハ關係各廳官吏、  
貴族兩院議員及學識經驗者ヨリ之ヲ選  
ブトトシ、學識經驗者ノ中ヨリ選ブ委員  
中ニハ各種團體ノ代表者等ヲモ加フルヲ相  
當ト認ム



而レテ右綜合的調査機關ハ其ノ所掌事項  
ヲ分掌セシムル爲内部的ニ之ヲ數部ニ分テ  
得ルコトトシ以テ調査審議ノ適正ト圖滑ト  
ヲ圖ラントス

## ニ 組織權限

(一) 内閣ニ議會制度審議會ヲ置キ、現在、議  
院制度調査會、貴族院制度調査會及選  
舉制度調査會ハ之ヲ廢止スルコト  
(二) 議會制度審議會ハ内閣總理大臣ノ監督ニ  
屬シ、其ノ諮問ニ應ジテ貴族院及衆議院ノ



機構其、他議院、制度ニ關スル重要事項

ヲ調査審議スルコト

審議會ハ前記ノ事項ニ付内閣總理大臣ニ

建議スルコトヲ得ルコト

(三) 審議會ニ總裁一人ヲ置キ内閣總理大臣ノ

奏請ニ依リ之ヲ勅命スルコト

(四) 審議會ニ委員及臨時委員ヲ置キ、内閣總

理大臣、奏請ニ依リ官吏、貴族兩院議員及

學識經驗者ノ中ヨリ内閣ニ於テ之ヲ命ズル

コト



(五) 審議會ニ其ノ所掌事項ヲ分掌セシムル  
爲部(例ヘバ議院制度部、貴族院部、衆議  
院部、如シ)ヲ置クコトヲ得ルコト

部ニ部長ヲ置キ、部長ハ總裁自ラ之ニ當リ  
又ハ事宜ニ依リ總裁ノ指名スル委員ヲシテ  
部長ニ當ラシムルコト

委員及臨時委員ノ所屬部ハ總裁之ヲ指名  
スルコト

(六) 部ハ部會ヲ開キ又必要ニ依リ各部聯合會  
ヲ開ク、審議會ハ總會ヲ開キ其ノ決議ヲ



以テ審議會ノ決議トスルヲ例トスルモ、事  
宜ニ依リ部會又ハ聯合會ノ決議ヲ以テ審  
議會ノ決議トスルコトヲ得ルコト

(七) 審議會ニ幹事長及幹事並ニ書記ヲ置ク  
コト

幹事長ハ法制局長官、幹事ハ關係各廳ノ  
新任官及奏任官(課長級)ヲ以テ之ニ充ツ  
ルコト

書記ハ關係各廳判任官ヲ以テ之ニ充ツル

コト



三、總裁其、他職員

(一) 總裁 (別途)

(二) 委員及臨時委員

委員、大體五十人、臨時委員、大體二十人  
トニ選定方針、概不左記ニ依ルコト  
委員

官長 (内閣書記官長、法制局長官、企畫院  
次長、樞密院書記官長、内務次官、内務政  
務次官、大藏次官、司法次官、司法政務  
次官、貴族院書記官長、衆議院書記官



長等)

貴族院議員

衆議院議員

學識經驗者(學者、各種團體代表者、經

驗者等)

臨時委員

委員、選定ニ準ズ

(三) 幹事

內閣、法制局、企畫院、貴族院事務局、衆議

院事務局、內務省、大藏省及司法省、勅任



官及奏任官（課長級）

四、經費

別途豫算書ノ通りトスルコト



科目及區分	員數	單價	金額
議會制度審議會諸費	1	110000	110000
調查費	1	110000	110000
議會制度審議會諸費	1	110000	110000
廳費	1	110000	110000
備品費	1	110000	110000
圖書及印刷費	1	110000	110000
筆紙墨文具	1	110000	110000
消耗品	1	110000	110000
通信運搬費	1	110000	110000
內國旅費	1	110000	110000
雜給及雜費	1	110000	110000
給委員費	1	110000	110000
囑託手當	1	110000	110000
合計			1100000

備考

參見議事錄入第...十...一







雜費		速記料	諸謝金	委員其他	水料
四〇〇		四〇〇	二〇〇	二五〇	一三九
二五〇		二〇〇	二〇〇	二〇〇	一〇〇
四三二	二〇〇	一〇〇	五〇〇	二五〇	一三九
〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇



閣甲 一三三

昭和十三年 五月十三日

内閣書記官長

内閣書記官

昭和十三年五月十八日 閣議可  
昭和十三年五月十八日 公布



# 内閣總理大臣 齋

## 法制局長官



外務大臣

齋

陸軍大臣

齋

文部大臣

齋

逓信大臣

厚生大臣

齋

内務大臣

齋

海軍大臣

農林大臣

齋

鐵道大臣

齋

大藏大臣

齋

司法大臣

齋

商工大臣

齋

拓務大臣

齋

内閣所屬臨時職員設置制中改正件起案上申ス依テ

別紙ノ通閣議決定セラレ可然ト認ム

勅令案

法制局







朕内閣所屬臨時職員設置制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

昭和三年五月十七日

内閣總理大臣

勅令第三百三十四號

内閣所屬臨時職員設置制中左ノ通改正ス

第三條 内閣ニ臨時左ノ所屬職員ヲ置キ内閣官房ニ屬セシム

一 滿洲事件行賞ニ關スル事務ニ從事スル者

屬 專任二人

二 支那事變行賞ニ關スル事務ニ從事スル者

屬 專任三人



三 恩給ノ臨時取扱ニ關スル事務ニ従事スル者

屬

專任一人

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス



理由

支那事變行賞ニ關スル事務ニ從事セシムル爲屬三人、恩給ノ臨時取扱ニ關スル事務ニ從事セシムル爲屬一人ヲ新ニ内閣官房ニ臨時増置スルノ必要アルニ依ル



# 參照

## ● 內閣所屬臨時職員設置制

昭和七年七月四日  
勅令第一百十號

改正、昭和八年第一七三號、九年第四八號、一二年第三一號

朕內閣所屬臨時職員設置制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム(總理大臣副署)

### 內閣所屬臨時職員設置制

第一條 恩給ノ臨時取扱ニ關スル事務ニ從

事セシムル爲內閣ニ臨時左ノ所屬職員ヲ

置キ恩給給局ニ屬セシム

專任二十六人

第二條 昭和十年國勢調査ニ關スル事務ニ從事セシムル爲內閣ニ臨時左ノ

所屬職員ヲ置キ統計局ニ屬セシム

統計局書記官 專任一人

統計局統計官 專任三人

統計局統計官補 專任十一人

專任八人

第三條 滿洲事件行賞ニ關スル事務ニ從事セシムル爲內閣ニ臨時左ノ所屬

職員ヲ置キ內閣官房ニ屬セシム

專任二人





附則  
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
昭和六年勅令第三十五號ハ之ヲ廢止ス

日本標準規格B4判(十一行全)(富井納)



五人 十三月分  
内  
二人 〓 〓 〓 〓  
三人 〓 〓 〓 〓

參照

昭和十三年度大藏省所管追加豫算

歳出 臨時部

第十六款 滿洲事件行賞諸費

第一項 滿洲事件行賞諸費

第四目 判任俸給

第一節 屬

四九二五円

五人、俸給一人平均年額九百八拾五円





參照

昭和十三年度大藏省所管追加豫算

歲出 臨時部

第三十一款 恩給臨時取扱諸費

第一項 恩給臨時取扱諸費

第一目 判任俸給

第一節 屬

一七、七三〇円

十八、俸給一人平均年額九百八拾五円



軍務局  
軍務部  
軍務課



支那事件行賞事務ニ關シ會計課職員增加理由

支那事變ニ關シ功勞アル者ニ對シ論功行賞ヲ行フコトトナリタルニ付之ガ行賞實施ニ付多數ノ勳章、賞杯、從軍記章等ノ褒賞物品類ノ購入契約、檢收及職員ノ給料、旅費ニ關スル支出事務等ヲ處理セシムル爲臨時內閣官房會計課ニ職員ヲ增置スルノ必要アルニ由ル

屬 三人（十三、十四年度）

参照

一、第七十三議會 追第二號

二、豫算額（昭和十三年度）

三人

九八五圓

二九五五圓

内

閣



一、恩給臨時取扱事務ニ關シ會計課職員増加理由

内閣恩給局ニ於テ恩給證書再交付ノ事務及支那事變ニ由ル戰傷病者等ニ關スル恩給事務ノ増加ニ伴ヒ之ガ所要物品ノ購入、檢收及職員ノ給料、旅費ニ關スル支出事務等ヲ處理セシムル爲臨時内閣官房會計課ニ職員ヲ増置スルノ必要アルニ依ル

屬 一人（十三、十四年度）

参照

一、第七十三議會 追第二號

二、豫算額（昭和十三年度）一人 九八五圓



